

MD 外食に次ぐ介護、高齢者向け宅配事業の全国展開に向けて ワタミ手づくりマーチャンダイジング株式会社 執行役員 仕入部長 富田 勇



2009年度は日高センターの開設があり、たくさんの各お取引業者様にご協力をいただきながら現在にいたっております。また、たくさんの産地、工場に伺い、各お取引業者様と目線を合わせて取り組みをしつつ、たくさんの安全で安心な食材を購入させていただいたことについて、本当に感謝しています。今後につきましてもお客さまの笑顔とおいしかったよという言葉を励みに、こだわり続けてまいります。

2010年度は高齢者向け宅配事業の商流・物流部門の取り込みにより、各お取引業者様の数も2倍に拡大したなかで、外食に次ぐ介護、高齢者向け宅配事業の全国展開に向けて、さらなる安全・安心な食材の購買に向けてありがとうを集めるよう努力してまいります。

外食 主力業態を中心に40店の出店 ワタミフードサービス株式会社 店舗開発本部 本部長 渡辺 郁夫



2009年度は23店の新規出店と30店の業態転換・改装を行いました。新規出店におきましては、慎重にマーケット調査を行い、出店基準を遵守した出店を行いました。また新店、転換、改装における内装工事におきましては、LED照明の導入等による環境負荷の低減、各建設関係のお取引業者様のご協力の下、投資コストの削減に努めました。出店基準の遵守および投資コストの削減は、店舗のオーナー様、建設関係のお取引業者様と永続的に取引いただくため、我々がこだわり続けなければならない重要なポイントです。また、投資コストの削減は、グループ社員の独立のチャンスを広げることに繋がっております。

2010年度は、主力業態を中心に40店の出店と、さらに「炭旬」「仰天酒場」等新業態、DFCオーナー店の出店を計画しております。出店数は昨年度の倍以上の規模になりますが、さらに厳格に出店基準を遵守し、投資コストの削減に努めてまいります。

介護 2020年400ホームを目標 ワタミの介護株式会社 開発営業部 部長 三浦 利之



ワタミの介護では、一人でも多くのご高齢者の方に心からのお世話をさせていただき、すべての方から「ワタミのホームに入ってよかったありがとう」と言ってもらえる有料老人ホームを目指しています。

2009年度は9ホームを新たに開設し、2010年度は14ホームを開設する予定です。今後、2020年400ホームを目標に、年間20ホーム以上の開発を進めていきます。

ワタミの介護の有料老人ホーム（ホーム名：レストヴィラ）は、ワタミグループの理念・ワタミの介護事業理念にご賛同いただいた企業様の遊休地の活用、個人オーナー様の土地の有効活用によって実現しています。現在は、関東圏を中心に運営をしていますが、今後は順次、全国に有料老人ホームを展開していく予定です。

主な取り組み		2009年度目標	2009年度結果	評価	2010年度目標
お取引業者様との 共存共栄を目指して	配送時の品質維持	配送時における品質クレーム33件未満	29件	○	配送時における品質クレーム29件未満
	配送時の品質維持	納品時間の厳守98%以上	99.3%	○	納品時間の厳守98.6%以上
	配送時の定期監査	継続して実施	計4回の実施	○	継続して実施
	環境への取り組み説明	年2回以上実施する会議にて説明を実施	新規お取引業者様9社に説明を実施	○	年2回以上実施する会議にて説明を実施
	物件を提供していただいているお取引業者様との協力	年1回（12月）ヒアリングを実施	12月に出席説明会を開催	○	年1回出席説明会を開催
	有機農業生産者との交流会を開催	年1回（懇親会）を開催	年1回交流会（懇親会）を開催	○	年1回（懇親会）を開催
公正な取引の強化	ビジネスパートナーシップ（BPS）開催	年2回の開催	—	—	年2回の開催
	入札説明会開催	新規物件の建設にあたっては入札説明会を開催	説明会を19回開催	○	新店40店舗中ローコストわたみん家以外の10店舗を計画
	購買方針の徹底	継続的に使用されている食材を年2回評価	年2回再評価を実施	○	継続的に使用されている食材を年2回評価

○達成、×未達成、—該当なし

ワタミグループに共通する取引基準

ワタミグループでは、お取引業者様とは、「お客さまへの安全で安心な商品の提供や、より良い社会づくりを目指す、ともに成長できるパートナー」として連携しています。そのために、お取引業者様と対話を重ね、情報・状況を共有しながら共存共栄できる取り組みを行っています。

また公平・公正な取引を徹底することで、サプライチェーン全体を通して、協力体制をつくり、お取引業者様との相互理解・信頼関係の強化・構築に努めています。特にお取引業者様については、公平な機会と公正な評価に基づいて調達することを目的にお取引先の選定・管理基準を設けています。また、新規お取引の際は、帳票での申請・評価制度を導入している他、お取引を継続している企業様にも年1回再評価を行う体制としています。

①生産における協力体制

●有機農業の振興

ワタミファームでは、安全で安心な農作物をお客さまにお届けするために「日本に有機農業を拡げ、技術的側面の普及や啓発活動を行う」ことを目的とするJOHF(*)が主催する生産者会議に参加しています。またこの会議の終了後には、ワタミファームが主催する交流会（懇親会）を実施しており、2009年度は、有機農産物を栽培する方々など120名の方が交流会に参加しました。

●堆肥・飼料の原料仕入れ

ワタミファームでは、「環境への配慮、資源の有効活用」をテーマに、お取引業者様と連携した仕入れに取り組んでいます。具体的には、豆乳の製造時に発生するおから、ビール粕などをワタミファームで堆肥や飼料として利用しています。

2009年度は、茶ガラ120t、コーヒー粕120t、おから80t、外食部門の食品残渣20t、落花生粕10t、米ぬか10t、もみから10t、豚糞50t、計400tを堆肥（飼料）原料として使用しました。

(*) JOHF(Japan Organic Heat Farmers-Food-Family)…有機農業の普及を目的に設立され、有機生産者および有機への転換意思を持つ生産者約100戸と関係業者で、技術の普及や啓発活動を行う任意団体。

②仕入・調達における協力体制

●仕入部門における購買基準

WTMDでは、1996年に策定された「購買管理規定」に基づき、独自の基準を設定しています。規定では、新規お取引業者様を含め公平で公正な取引を実現するために、継続的に使用されている食材などについては、年2回再評価をすることなどが義務づけられています。

●提携漁港

WFSでは、福島県相馬漁港・神奈川県小田原漁港などの漁業協同組合様と提携しています。漁港から直接店舗に納品される仕込みのため、鮮度が良い魚をお届けできることはもちろん、量が確保できない、形が小さいなどの理由で通常の流通市場に出すことができない魚を低価格でお客さまにお届けすることができます。（2010年5月末現在、37店舗にて販売）

③施設開発における協力体制

●公平・公正な入札説明会の実施

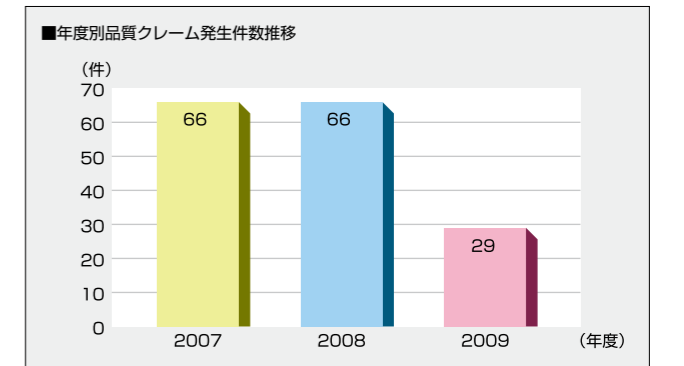
ワタミグループでは、外食事業における新規物件の建設業務にあたり「入札説明会」を実施しています。また、ワタミに物件を提供していただいているお取引業者様への定期的な訪問を継続して行い、日頃の感謝をお伝えするとともに積極的な意見交換に努めています。

④物流における協力体制

●全国の物流取引業者様との改善活動による品質クレームの削減

WTMDでは、半年に一度、全国の物流でのお取引業者様と目標や情報を共有することを目的とした「全国物流会議」を実施しています。また、共有した目標を日々の業務に落とし込み、品質管理の向上・改善や環境に対する取り組みを行うために毎月、東日本・西日本での「定例会議」を実施しています。

2009年度におきましては、各社毎に業務改善テーマを定め改善事例の発表を共有し、担当者育成や業務改善活動の積極的な推進を行いました。またこうした継続的な取り組みにより、2009年度の「品質クレーム」の発生件数は、2008年度より43%減の29件となりました。



●品質の確認監査・定期訪問

WTMDでは、定期的にお取引業者様を訪問し、製造されている商品が、仕入れ・調理（製造）など、「セクションごとに決められた手順・工程で行われ、一定の品質を確保していること」を確認しています。

また、2006年度からは、飲料卸売業者様が中心となり物流会社様と実施している監査制度に協力させていただき、衛生管理や安全運転の実施など46項目を確認しています。

2009年度は4回の監査を実施しました。

⑤施設管理における協力体制

●ビジネスパートナーシップ（BPS）

ワタミエコロジーでは、お客さまの店舗・施設のトラブルを迅速に解決するために、約1,600社の協力会社様と積極的に連携する「ビジネスパートナーシップ」制度を構築しています。BPSでは、年2回「BPS会議」を開催し、ワタミのビジョンの共有や、品質向上を目的とした事例紹介、グループトピックスなどを共有しています。